

## からだ・医学・性



## からだの みなさん (かがくのとも傑作集)

五味太郎／著

福音館書店 2005年 900円

男の子が「なんとなく ぼんやり あるいておりますと」指が、目が、口が、舌が…、お尻や足の裏までも、からだのあちこちが勝手にいるんなことを言い出します。そして、少し遅れて頭がそうなんだと言います。感じるとは？ 考えるとは？ を楽しく描いた絵本です。



## はなのあなのはなし (かがくのとも傑作集)

やぎゅうげんいちろう／作

福音館書店 1982年 900円

表紙に真っ黒な●がふたつならんでいます。鼻の働きをわかりやすく、面白く語りかけます。からだへの好奇心の入り口とも言える「はなのあな」をユーモラスに描いた、やぎゅうげんいちろうワールドの一冊です。

(参考図書)

『おっぱいのひみつ』(かがくのとも傑作集)

柳生弦一郎／作

福音館書店 1989年 838円



## こいぬがうまれるよ

ジョアンナ・コール／文

ジェローム・ウェクスラー／写真

つばいいくみ／訳

福音館書店 1982年 900円

「いいこと おしえてあげようか？」ではじまるこの本は、お隣の犬に赤ちゃんが生まれると、一匹もらうことになっている女の子のやさしい語りですすみます。「ソーセージ」と名付けられる子犬の誕生から、女の子と散歩できるようになるまでの2カ月を追った写真絵本です。



## たまごとひよこ

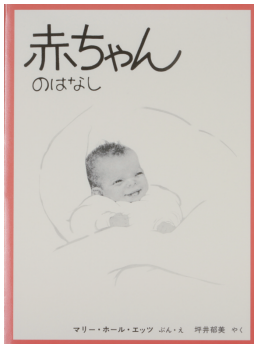
ミリセント・E・セルサム／文

竹山博／絵

松田道郎／訳

福音館書店 1972年 1100円

めんどりが産んだ受精卵から、21日目にひよこが誕生します。たまごの黄身に付いている白い点が胚となり、血管を通して黄身からの栄養をもらってひよこへと成長していく様子を、わかりやすい絵で説明しています。性教育にもつながる科学絵本です。



## 赤ちゃんのはなし

マリー・ホール・エッツ／文・絵

坪井郁美／訳

福音館書店 1982年 1500円

『もりのなか』で知られるエッツが、「子どもたちに生命誕生の美しさを伝えたい」という思いで描いた大型絵本です。胎児期から、誕生してにっこり笑うまでの成長を、愛情深い文と表情豊かな赤ちゃんの絵でつづります。

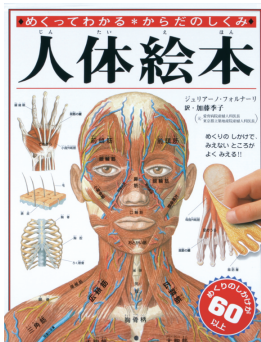
(参考図書)

『赤ちゃんの誕生』

ニコル・テイラー／著 レナルト・ニルソンほか／写真 上野和子／訳

長阪恒樹／監修

あすなろ書房 1996年 2400円



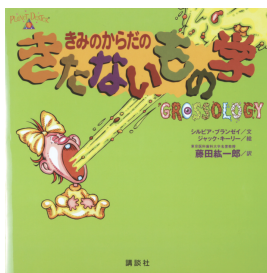
## 人体絵本 めくってわかる からだのしくみ

ジュリアーノ・フォルナーリ／作

加藤季子／訳

ポプラ社 1997年 2000円

縦長絵本の見開きいっぱい人体が描かれています。皮膚の下、体の中はどうなっているのでしょうか。脳、骨、筋肉、内臓、皮膚などの器官や、体のしくみ、働きを60以上のめくりしかけを使って、解剖学的に正確に解き明かします。



## きみのからだのきかないもの学

シルビア・ブランゼイ／文

ジャック・キーリー／絵

藤田紘一郎／訳

講談社 1998年 1800円

ゲロ、鼻くそ、ウンチ、おしっこ、にきび……など、“きかないもの”と感じるこれらを、子どもたちに正しく知ってもらうために、生理学や細菌学を基礎にユニークな絵や写真を使ってわかりやすく解説した本です。



## 人類vs感染症 (岩波ジュニア新書)

岡田晴恵／著

岩波書店 2004年 780円

ハンセン病、ペスト、梅毒、天然痘など、紀元前から人類の歴史の一端には感染症との闘いがありました。人々は、これらの病原菌を突き止め、治療法や予防ワクチンを開発してきました。現代の脅威である新型インフルエンザやエイズなどにも言及しています。



## 進化しすぎた脳

中高生と語る[大腦生理学]の最前線

(ブルーバックス)

池谷裕二／著

講談社 2007年 1000円

可塑性に満ちた脳のメカニズムについて、中高校生相手に最新の知見も取り入れながらわかりやすく独創的に語った講義録。「脳というのは進化に最小限必要な程度の進化を遂げたのではなく、過剰に進化してしまった、と言えるのではないか。」と著者は考えます。大腦生理学最前線の話題満載の一冊です。